

平成から令和へ。川尻の“いま”を伝えます

# 河陽新聞

Vol.26  
2019.5.10  
KAWASHIRI AREA  
NEWSPAPER  
KAYOU SHINBUN



## まちづくり放浪記① ～飢肥城下町編～



記者 益本 武士 (7町内)

みなさん宮崎県日南市にある飢肥という地域をご存知でしょうか。城下町でなんとなく川尻町に似ている程度だという印象の方も少なくないのでしょうか。

飢肥を細かく調べると九州で最初の「重要伝統的建造物群保存地区」として日本で2番目に選定された地区でした。また戦国時代からの街並みを残す武家町で、豊臣秀吉から任せられた伊東氏が14代にわたり飢肥藩主として治められてきた土地で、また伊東マンショや小村寿太郎で有名な地域でもあります。

飢肥地区の世帯数は約2,400世帯と川尻町より少ないですが、もともと観光地として有名で2010年で6.8万人もの観光客が訪れていました。しかし現在では年間20万人もの観光客が訪れるほどの宮崎県屈指の観光地となっており、観光客の伸び率は物凄いことになっています。

ではその人気の秘密はどこにあるのでしょうか？観光名所の飢肥城、そして大手門、また飢肥城歴史博物館や小村寿太郎記念館などの施設や食の名物であるおび天や厚焼き玉子だけではそこまで観光客は伸びないはず。その秘密がどこかに隠されているはずと思い、我々は飢肥城下町保存会に視察を申し込みました。

雨に打たれながら、かつ暑い質問をぶつけながら、街中をくまなく視察すること2時間超、ついに我々は観光客訪問数倍増以上とされる答えを二つつけることに成功しました。

その答えは①「あゆみちゃんマップ」と②「地域の統一感」にありました。

飢肥は当時、飢肥城や大手門などの観光施設のみの観光で、トイレ休憩後そのままバスで次の観光地へ移動され便所観光地と言われていたそうです。

儲からない観光地、やる気のない商店街、その現状を打破すべく2009年に「あゆみちゃんマップ」が登場しました。飢肥観光に来た人はほぼマップを購入しています。値段は700円と1,200円…「ん、高いな」と思われると思いますが、実際訪れてみると納得させられます。あゆみちゃんマップにはなんと食べ物や手作りの商品などと引き換えることができる引換券が5枚も付いて更に観光施設が無料（おすすめは1,200円コース）となり、その場に観光客が滞留することになります。そうなることで自然と各店舗に商



品力が付き、更に観光客にお買い物してもらい相乗効果的に街中が活気付きました。その結果として現在は個性豊かな商店が41店舗も軒を並べるようになりました。

しかしそれだけでは十分におもてなしができるわけがありません。訪れてもらった人たちに「いい街だったね。」「また来たいね。」と思わせるためには「地域の統一感」が重要だと城下町保存会の方はおっしゃっていました。統一感とは街中に電柱がなく、観光客に優しい日本一短いスクランブル交差点や当時と変わらない武家町だけが統一感ではありません。町全体でおもてなし文化を醸成することが重要だとおっしゃっていましたが、飢肥で暮らしているみなさんはおもてなしの気持ちが溢れ出ていました。

その結果として飢肥に魅せられた東京の古民家再生の専門家が日南市と一体となり、現在更なるまちなみ再生を住民と手がけて古民家を宿泊施設にリノベーションされていました。そして特別に私たちはその素晴らしい古民家の宿泊施設に入れてもらいました。1日1グループ限定の完全な貸切宿で、日本伝統の中に飢肥の雰囲気や溶け込んだ言葉に表せないくらいモダン。それを城下町保存会のおじちゃんが管理していました（笑）

一方で川尻町はという国指定である御蔵、御蔵前船着き場、御船手渡しの「熊本藩川尻米蔵跡」という観光資源を持っており、川尻刃物や桶などの工芸品もあり、飢肥に負けない地域のつながりもしっかりと残っております。その歴史と文化が息づくちよいと洒落な川尻町で多くの観光客を住民である我々みなでおもてなしをする。「次は私たちの番だっ！」と考えただけでもワクワクしませんか（笑）？



## 川尻お寺 de フェスタ4



記者 金井俊行 (7町内)

川尻お寺 de フェスタに日頃よりご理解ご協力ご支援を賜り感謝申し上げます。さて平成最後の「川尻お寺 de フェスタ」が平成31年3月17日に開催。川尻校区にあるお寺、西楽寺・正行寺・浄行寺・常清寺・大慈禅寺・遍照寺・法宣寺・本立寺の9カ寺と河尻神宮を会場とし、当日は3000人を超える来場者で賑わいをみせた。

「川尻お寺 de フェスタ」は若手僧侶を中心にお寺を身近に感じて頂くこと、平成28年に実行委員会を結成。今年で4回目を迎え、今回はテーマを「結〜むすぶ〜」とし、地域とお寺・人と人を結ぶことで川尻の地域振興の一端を担えればとの思いのもと行なった。現在はお坊さんだけでなく、地域の方々と共に寺フェスを運営させて頂いている。今回の内容はオープニングとして、平成年間でも起きた災害によってお亡くなりになった方の追悼並びに平和祈念法要を各宗派合同でさせて頂いた。その後各お寺でイベントがスタート。棺桶体験や、精進料理のおもてなし、フリーマーケットやワークショップ。写経してお守り作りや和菓子体験など。また瑞鷹様より協賛と、現川尻小PTA会長 森 長浩さんのご協力のもと利き酒大会を行うことも出来た。恒例となったスタンプラリーは6つ以上のお寺を回り、最後は河尻神宮に行き抽選を行った。大人用としてキムラロック（焼酎）等も準備し、また川尻のお店から協賛も数多く頂き豪華なフェスくじとなった。テーマが「結〜むすぶ〜」ということで9町内の水野 大さんにご協力頂き、お寺 de 婚活を初めて開催した。コーディネーターとしてテレビやラジオでご活躍の荒木直美さんを迎え、川尻の町並みやお寺ならではのイベント、さらには川下りを体験しながら10対10の婚活を行った。そこでなんと4組のカップルが誕生することとなった。

今回は同時開催特別企画として、「三途の川 川下り」や、「もっこすファイヤーと締めぐり」もあり、締めぐりでは吉本住みます芸人のもっこすファイヤーと共に4カ所のお寺や史跡を回り、最後には常清寺にて一般参加者と共に水行体験も行った。

今回も川尻お寺 de フェスタの代表を務めさせて頂きましたが、無事に開催出来ましたのも地域の皆様のご理解ご協力ご支援の賜物でございます。心より感謝申し上げます。新しい令和の時代でも地域の為に川尻校区の神社仏閣が手を取り合う事を願い、またこれからも地域の皆様から愛される川尻お寺 de フェスタであるよう精進致します。合掌



## 川尻うまがもん vol.1

川尻茶屋



記者 水野 大 (9町内)

川尻に移り住んで1年の水野が担当します、「川尻うまがもん」。新参者の私ですが、皆さまに川尻の美味しいをお届けいたします！記念すべき第一回目は、みんな大好き！カレーですよ〜。皆さんご存知「川尻茶屋」です！

オススメは2種類の味が楽しめる「あいがけカレー」。阿蘇のあか牛をふんだんに使用したドライカレーは濃厚な甘さが後を引き、スパイスたっぷりのスリランカカレーは癖になるスパイスさ。食感の違うふたつの組み合わせが、食べている人を飽かささせません。

県産の野菜もたくさん使用されており、ボリューム満点です！写真から見てもわかる通り、インスタ映えますね〜。美しい！カラダを温める効果のある生姜やシナモンを使い、塩分と糖分を控えめにするなど、心配りも嬉しいですね。憧れの俳優はジャッキー・



チェン、趣味はバイクという素敵な笑顔が印象的な店主の高木リサ（たかぎりさ）さんから読者の皆さんに一言。「お茶だけでも結構です。お気軽にお立ち寄りください。お待ちしております！」

営業時間などは変更がある為、お店のFacebook、Instagramでご確認ください。



## 新元号令和を迎えて



記者 城南中学校 生徒会長 金井 胡美 (7町内)

「平成」から「令和」に元号が変わりました。平成生まれの私にとって、初めてのイベントにワクワクするような、寂しいような、何とも言い難い気持ちです。「令和」になったことで、今までと同じ学校行事も、初めての受験も、全てが「令和」になって初めての」という前置きがつき、特別な年になります。

元号は、645年の「大化」から始まり、応仁や享保など授業でたくさん習いました。元号は「平成」を含めて247個あるそうです。それだけたくさんの時代がかわり、そして、元号というものを使い続けている国は、世界で日本だけだと知りま

した。時代の流れによって、消えていくものが多いこの世の中で、元号というものを大切にしていることは、とてもすごいことだと思います。

そして、万葉集の「初春の令月にして、気淑く風和ぐ梅は鏡前の粉に披き 蘭は珮後の香を薫す」(春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように、一人ひとりが明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができる。そうした日本でありたい)から引用した、人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つという想いを込めた「令和」という時代を、たくさんのことを一生懸命に、挑戦し取り組んでいきたいです。

### 編集後記



河陽新聞の編集長となりました外城町(7町内)出身の益本武士と申します。長年この河陽新聞を手掛けられていた大先輩である村田幸博さんから引き継ぐこととなり、他メンバー一同身が引き締まる思いですが、引き受けた以上は川尻町の良い部分である歴史と伝統だけでなく新しい目線で新聞作成が出来ればと思っておりますので、川尻校区自治協議会の機関紙として今後ともよろしくお願いたします。さて5月1日より元号が「令和」となりましたが、川尻町にとっても令和元年としてどうなるのか非常に楽しみです。川尻小学校も1874年創立ですから、ちょうど

145年目という節目の年となります。この河陽新聞の名称のルーツは川尻小学校にあることを知っている方は少ないのではないのでしょうか。法宣寺には川尻小学校創立の石碑が静かに佇んでいます。その碑文には「明治七年四月広瀬・大野の二私塾を合併し、法宣寺本堂を仮校舎に当て、川尻小学校を開設。翌八年に河陽小、河東小の二校を設立して学童を二分した」と記されており、まさにその河陽小からこの河陽新聞の名称をいただいたこととなります。明治の早い時期から教育にかける地域住民の熱い熱意を引き継ぐ、この河陽新聞を私たちが平成から令和へ引き継いでいきたいと思ひます。

今回、「河陽新聞」のリニューアルを記念して、大人気のプレミアムキャラメルポップコーンを取り揃える「サブリーポップコーン」(代表は8町内 佐分利太介さん)のからし蓮根風味ポップコーンを抽選で30名にプレゼントいたします！

ご応募は [kayou.shinbun@gmail.com](mailto:kayou.shinbun@gmail.com)

に氏名・住所・連絡先・今号の感想を記入してメールしてください。当選者の方には6月末までに返信いたします。(商品は手渡しになります。詳細はご当選者様にお送りします)



〒860-0823  
熊本市中央区世安町327-3 リバティ世安 1F  
Tel.096-354-9620

